

平成31年度 石川県立飯田高等学校 学校評価計画書

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 多様な進路希望を実現するために、思考力・判断力・表現力の醸成による相応な学力養成	① 教員の授業改善と生徒の進路意識の向上を図る。	各教科 各学年 進路指導課	昨年度、学習到達度を測る1月模擬試験(英数国3教科総合)の結果は、1・2学年全体で偏差値60以上の生徒の割合が15%であった。	【成果指標】 1・2学年の1月模擬試験で、英数国3教科総合の偏差値60以上の生徒の割合が10%、55以上が20%、50以上が50%を目指す。 (学年毎)	1・2学年それぞれで目標基準を A:すべて達成した B:2つ達成した C:1つ達成した D:達成できなかった	C以下の場合、主担当で指導体制を検討する。	模擬試験の結果で評価
	② 進路実現可能な学力を身につけるために自主的学習習慣を定着させる。	各学年 進路指導課	学年+1時間の家庭学習時間を推奨している。1・2年ともに家庭学習時間増加への取組意欲は高い。	【成果指標】 予習・復習を習慣化させ、家庭学習が充実している。 (学年毎)	進路アンケートで家庭学習時間を確認し、学年+1時間を達成している生徒の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C以下の場合、主担当で指導体制を検討する。	進路アンケートで評価
	③ 公務員志望者が幅広い知識と、情報処理能力を身につけ、実際の公務員試験に対応できる力を育成する。	各教科 進路指導課	個別分野で弱点を持つ生徒が見られる。個人の強みと弱みを明確にし、弱点を克服させながら学力の底上げを図る必要がある。	【成果指標】 公務員模擬試験の総合判定で、Bランク以上の生徒の割合が40%以上を目指す。	公務員試験直前の模擬試験においてBランク以上の生徒の割合が A:60%以上 B:40%以上 C:30%以上 D:30%未満	C以下の場合、主担当で指導体制を検討する。	公務員模擬試験結果で評価
	④ 研究授業、互見授業を通して、探究的な学習活動や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推し進める。	教務課	ICTの活用や主体的・対話的活動を「深い学び」へ導いて思考力を育むため、教員の授業改善や教材の工夫への意識を更に高める必要がある。	【努力指標】 授業改善のため、中学校と連携した研究授業や互見授業に積極的に取り組んでいる。 【満足度指標】 授業を通じて学力(思考力)が身につけてきていると実感できる。	授業改善への取組に年間を通じて参加した回数の平均が A:5回以上 B:4回以上 C:3回以上 D:3回未満 授業を通じて学力(思考力)がついてきているとする肯定的な評価が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C以下の場合には取組方法を見直す。	生徒による授業評価アンケートで評価

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 人間関係力の向上による組織力の強化と社会に開かれた学校づくりの推進	① 「ゆめかな」の活動を地域の方をはじめ多くの方に認知して頂き、発表会への参加者を増やす。	総務課	活動は4年目を迎え、少しずつ認知して頂いているが、年2回の発表会の地域の方々の参加は少なく、運営側の工夫が必要である。	【努力指標】 「ゆめかな発表会」の広報活動の強化を図り、保護者や地域の方々の参加者増を目指す。	年2回行われる「ゆめかな」発表会の参加者が前年に比べて A:150%以上 B:120%以上 C:100%以上 D:100%未満	C以下の場合、取組方法を見直す。	11月・2月の発表会来場者数で評価
	② HR活動や委員会活動を通して、集団づくりや人間関係づくりを進め人間関係力を育てる。	生徒指導課 全職員	生徒会が中心となり、学校行事は充実しつつあるが、各種委員会や生徒全体で十分な意見を交わし、取り組む余地がある。人間関係力を高めることにより、生徒が互いに尊重し合う心の涵養につなげていきたい。	【成果指標】 生徒間で十分な意見交換を行い、組織的に取り組むことができている。	校内の活動で、十分な意見交換や協働した取組が日常的に達成できたと考える生徒の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の生徒アンケートで評価
	③ 携帯電話・スマートフォンの使用ルール遵守と、1日の使用時間を削減する指導を進める。	生徒指導課 全職員	携帯・スマートフォンの使用が家庭学習時間を奪っている現状があり、昨年度の1人あたりの1日の使用時間が60分を超えている。今年度は30分以内を目標とする。	【成果指標】 家庭学習に影響の少ないような、携帯・スマートフォンの適正な使用ができている。	生徒1人あたりの携帯・スマートフォンの1日平均使用時間が A:30分以内 B:40分以内 C:50分以内 D:50分より長い	C以下の場合、指導方法を見直す。	年5回の生徒アンケートで評価
	④ 時間厳守の習慣の確立を目指し、「遅刻0運動」を継続する。	生徒指導課 全職員	授業開始のチャイムで授業を開始することは定着しているが、朝の「遅刻0」の日数は昨年度117日であった。学校生活のあらゆる場面で時間を守る習慣を定着させたい。	【成果指標】 時間を守る習慣が定着し、朝の遅刻が0になる。	「遅刻0の日」が年間合計で A:160日以上 B:140日以上 C:120日以上 D:120日未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	生活委員による毎週末の遅刻集計により評価
	⑤ 挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣の定着について指導を徹底する。	生徒指導課 全職員	朝の挨拶運動や登校時の指導により挨拶ができる生徒の割合は高い。服装や髪型で指導を受ける生徒は減少している。	【成果指標】 集団生活における規律を遵守し、挨拶運動により人間関係力が向上している。	日常的に挨拶ができたり、規則を守ることができた生徒の割合が A:85%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の生徒アンケートで評価

*「ゆめかな」とは、本校独自の探究型学習である。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 普通科、総合学科それぞれの特長を活かした教育活動と連携した活動の推進	① 普通科・総合学科の生徒が合同で1つの研究テーマを設定し、互いに協力しながら探究活動を行う。	ゆめかな担当 総合学科 生徒会	昨年度まで普通科と総合学科では、「ゆめかな」の活動と「地域学」「課題研究」など探究活動に取り組む方法が異なっており、それぞれの学習成果について、相互に高め合う機会が少ない。	【満足度指標】 普通科・総合学科それぞれの生徒が共に学ぶことで「ゆめかな」の時間が有意義なものになっている。	普通科・総合学科合同の「ゆめかな」への取組に対して、生徒の満足度が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C以下の場合、取組方法を見直す。	11月・2月の発表会後の生徒アンケートで評価
	② 地元に着目を持って、地域産業と連携し、地域の方々の活動を通して、人間関係力の向上を図る。(総合学科)	総合学科	地域学I等の授業で、地域の方々と生徒が関わり、体験的行事やインターシップを行っており、また、地域のイベントにおいて珠洲の実商店を運営し、販売実習を行ってきた。	【満足度指標】 地域の方々の様々な活動を通して、人間関係力が向上している。	地域の方々の活動を通して、人間関係力が身に付いたと実感できた生徒の割合が A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	C以下の場合、取組方法を見直す。	生徒アンケートで評価
	③ 進学希望者及び公務員希望者の進路実現を支援する体制を構築する。(普通科)	3学年 進路指導課	国公立大学56名、私立大学7名、大 学校3名、短大専門学校11名、公務 員10名、民間就職2名の希望者がい る。(普通科)	【成果指標】 年間を通して適切な学習指導等が行われ、その成果として生徒の進路希望実現を目指す。	年度末において、進学希望者の年度当初の進路希望が実現できた生徒の割合が A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満 公務員希望者の A:70%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	C以下の場合、主担当で指導体制の見直しを行う。	
	④ 個に応じた進学指導や就職指導の充実を図り、ミスマッチのない進路選択ができるように指導を進める。(総合学科)	3学年 進路指導課	国公立大学1名、私立大学3名、短大 専門学校11名、就職15名の希望者 がいる。(総合学科)	【成果指標】 年間を通して適切な学習指導等が行われ、その成果として生徒の進路希望実現を目指す。	年度末において、進学希望者の年度当初の進路希望が実現できた生徒の割合が A:90%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 就職希望者の内定を A:12月までに100%を得た B:1月に100%を得た C:2月に100%を得た D:3月以降に100%となった	C以下の場合、主担当で指導体制の見直しを行う。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 効率的でかつ効果的な業務や指導法の改善による働き方改革の推進	① 生徒と向き合う時間を確保するために、会議や校内研修の効率化を図る。	全分掌	会議の精選や時間短縮に取り組んでいる。今まで以上に効率よく効果的な運営を行うために、資料作成内容・方法に加えて、会議時間を意識して協議する必要がある。	【成果指標】 会議の内容について、主担当が所要時間を設定し、その時間内での終了達成度で評価する。	事前に設定した時間内に会議が終了した割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C以下の場合、 方策を検討する。	
	② 合理的・効率的・効果的に部活動を実施する。	生徒会	部活動の休養日を設定し、実施している。年間活動予定、月別活動予定を公開し、合理的・効率的・効果的な部活動の実施を目指している。	【成果指標】 週2日以上、平日1日と土曜日又は日曜日に休養日を設け、土曜・日曜・祝日・振替休日において年間52日以上の休養日を実施する。	週2日以上休養日を設け、土曜・日曜祝日・振替休日において年間52日以上の部活動休養日を実施した部活動の割合が A:100% B:95%以上 C:90%以上 D:90%未満	C以下の場合、 方策を検討する。	部活動実施報告による
	③ 業務改善に取り組んでいることを地域や保護者の方々に周知し理解を図る	総務課	定時退校日、部活動休養日、リフレッシュウィーク、学校閉庁日など教員の多忙化改善の取組について、地域や保護者の方々に知られていない。	【努力指標】 地域や保護者の方々に対して、教員の多忙化改善の取組について説明する機会を設定する。	地域や保護者の方々に対して、教員の多忙化改善の取組について説明した回数が A:5回以上 B:3回以上 C:1回以上 D:0回	C以下の場合、 方策を検討する。	